

Preprint はこちら : [arxiv.org/abs/2512.12121](https://arxiv.org/abs/2512.12121)

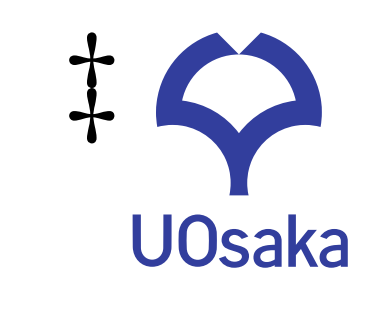


[arxiv.org/abs/2512.12121](https://arxiv.org/abs/2512.12121)

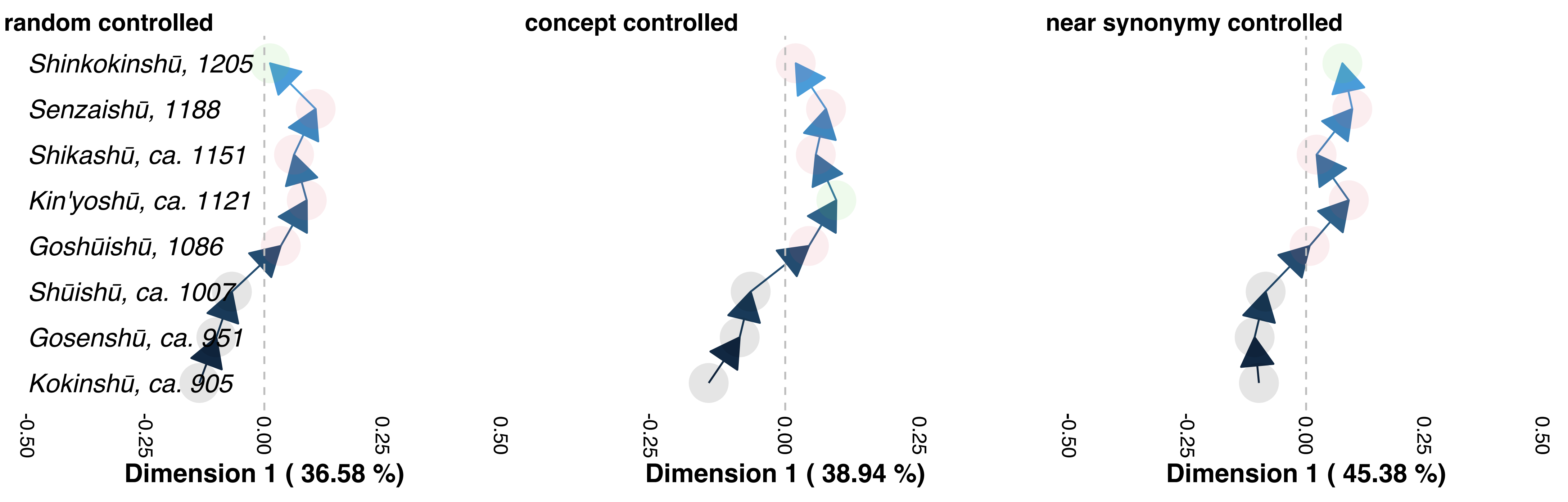
# 語彙プロフィールに見られる八代集における変化

陳旭東<sup>†</sup>   ホドシチェクボル<sup>‡</sup>   山元啓史<sup>†</sup>

じんもんこん 2025, 2025 年 12 月 12 日



## 結果 1.



- 異なる水準のパターンに大きな相違が見られず
- 後拾遺で正負転換 (0 値横断)
- クラスタリング:
  - 「古今・後撰・拾遺」同クラスタ
  - 「後拾遺・詞花・千載」同クラスタ
  - 「新古今」「金葉」は中間水準で不一致
- 金葉以降の往還:
  - 金葉 (同時代重視)
  - 詞花 (後拾遺集歌人重視)
  - 千載 (同時代重視)
  - 新古今 (本歌取り隆盛)

## 結果 2.



ランダム水準：4 コンストラクト

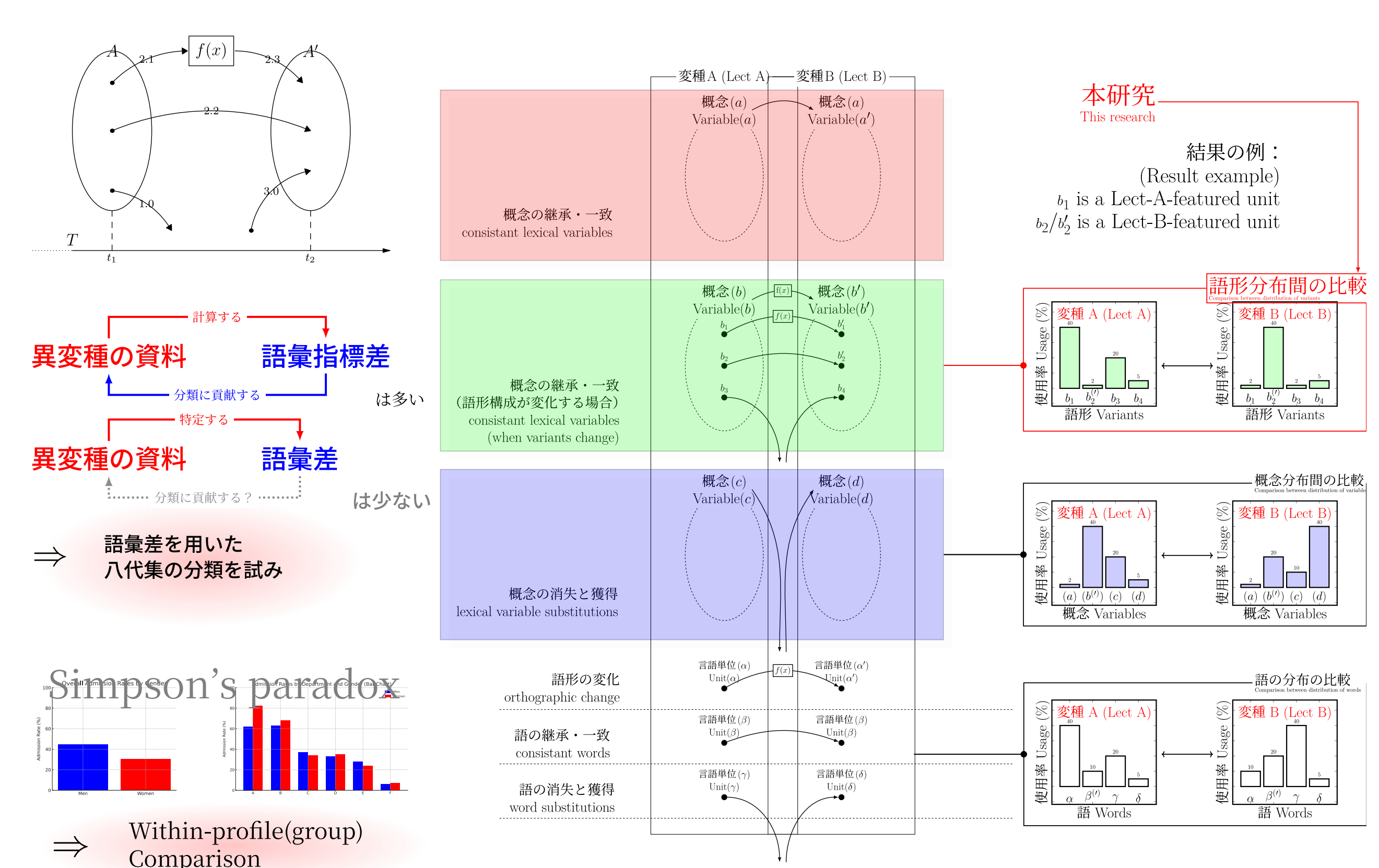
同概念水準：13 コンストラクト

類義語水準：5 コンストラクト

三水準共通点：

- 「金葉→詞花」「拾遺→後拾遺」の変化が「古今→後撰」の変化より大きい

## 背景



## 手法

